

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 136円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

「紫陽社50年」を振り返って

紫陽社の本は、著者の第一詩集が過半を占める。若い詩人たちの最初の仕事に立ち会える。それが大きなよろこびだ。

文・現代詩作家 荒川洋治

紫陽社のスタートは1974年。今年、2024年で50周年を迎えた。主に新人の第一詩集で、刊行点数は、287点になった。

紫陽社については22年前、「新潮」編集部の求めに応じ、「新潮」2002年4月号に「詩集の時間」という長いエッセイを書いた。『忘れられる過去』(みすず書房、のち朝日文庫)に収録。40周年のときは2014年3月8日、読売新聞夕刊文化欄に「詩人の出発に立ち会う——紫陽社40年を迎えて」を寄稿。今回の50周年では5月15日、福井新聞の道浦律子記者による記事〈詩集支え「紫陽社」50年〉が掲載された。同紙7月4日社説でも50周年のことが記された。

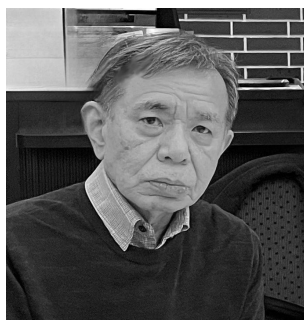
「たらのめ」という詩の同人誌があるとしたら、そこから同人の詩集などを出すとき、自動的にその発行所は「たらのめ発行所」といったものになるだろう。それと同じで、特別な実体をもたないものの、出版は可能だ。紫陽社も、そんな形で出発した。いまは伝説化した伊達得夫の「書肆ユリイカ」、身近なところでは、則武三雄が福井の詩人たちの詩集を刊行した「北荘文庫」が前景にあった。

幸先のいいスタート

編集、制作から納品、スリップ書きまで、ひとりで行う。第1冊目の詩集は、清水哲男『水甕座の水』(1974年6月)。翌年、第25回H氏賞を受賞し、幸先のいいスタートを切った。

その後、1979年の〈80年代詩叢

書〉(全4冊)が注目を浴びた。そのなかの井坂洋子『朝礼』(1979年7月)、伊藤比呂美『姫』(同年8月)が、女性詩ブームの発火点となったことは、詩の世界では知られているかと思う。思潮社は、その3年後の1982年7月、シリーズ《女性詩の現在》を開始、伊藤比呂美、白石公子、井坂洋子などの新詩集を出し、女性詩ブームを本格化させた。だから1979年



荒川洋治氏

7月からの1年くらいは、紫陽社が思潮社の先を走っていたことになるのかもしれない。当時、ぼくの印象では、思潮社は、既成詩人たちの活動に軸をおき、新しい詩人たちへあまり関心を示さなかった。紫陽社のような小さな版元がひとつの役割をになうことになったのだと思う。

〈80年代詩叢書〉の広告は、ほぼ毎月のように思潮社の月刊誌「現代詩手帖」に掲載。「見せる比呂美、聴かせる洋子。」「男子、騒然。」「子宮、二周。」など派手なコピーで、新世代の登場をアピールした。『現代詩年鑑』(2002)に、「荒川さんがいなければ、女性詩というものはいなかったらありえなかったかもしれない」(吉田文憲)ということばがあるが、その時期の印象を語るものかと思う。

1960年代後半から1970年代後半にかけては、詩集を出す出版社が数多く

存在した。前記「詩集の時間」、「遠くからの思い出」(「ユリイカ」2023年8月号/特集・小田久郎と現代詩の時代)で書いたことの一部をもとにあらためて記してみる。

詩集を基軸とした思潮社、青土社、昭森社、詩学社、土曜美術社の他には、河出書房新社、筑摩書房、集英社、晶文社、彌生書房、国文社、深夜叢書社、八坂書房、山梨シルクセンター出版部、編集工房ノア、花神社などが詩集を刊行。また個人的色彩の濃い出版社(以下、マイナー・プレスとする)には、永井出版企画(清水昶『少年』、『天野忠詩集』他)、仮面社(知念榮喜『みやらび』他)、構造社(佐々木幹郎『死者の鞭』、望月昶孝『鏡面感覚』他)、審美社(岡田兆功詩集』他)、母岩

社(『会田綱雄詩集』他)、書肆山田(谷川俊太郎『タラマイカ偽書残蔵』、熊倉正雄『本願寺』、芝山幹郎『晴天』他)、創言社(『丸山豊全詩集』他)、武蔵野書房(『耕治人全詩集』他)、アデイン書房(清水哲男『雨の日の鳥』他)、詩の世界社(鈴木志郎康『家族の日溜まり』他)、れんが書房新社(『堀川正美詩集』他)、駒込書房(松井啓子『くだものにおいのする日』他)、文章社(大野新『藁のひかり』他)など。詩人が発行人であるのはワニ・プロダクション、北荘文庫、アトリエ出版企画、書紀書林、樽人出版会、味爽社、騒騒発行所など。百花繚乱である。多くは1980年代半ばに終息したが、現在も形を変えてつづく版元もある。

「詩は、思潮社」の時代。1968年の「現代詩文庫」発刊後、詩の読者は拡大した。マイナー・プレスは思潮社に対抗するだけではない。詩の流れ

を変える力を秘めていたといえる。これらの出版活動は、詩に対する無償の熱情の現れだった。「季刊審美」「南北」など詩を積極的に掲載する個性的な文芸誌も数多く存在した時代だ。

思潮社が営む、日本ではじめての詩の本の店「ぼるこ・ぼろうる」が1972年3月、池袋パルコに開店し、話題になった。その後、「ぼえむ・ぼろうる」(西武池袋店)、「ぼると・ぼろうる」(西武渋谷店)もオープン。当時、紫陽社の詩集も「ぼろうる」で販売されていた。夕方、ある詩集を20冊納品したところ、翌日の夕方には「もう残り少なくなりました」と電話が入ることもあった。現代詩の好きな、とある大会社の部長さんが、夜、ぼくの家に突然来て、玄関先で、「ねえ、□□□□という詩集の初版、もうないの？ あったらいくらでも出すよ」ということもあった。紫陽社は委託販売が主体なので、会社(1979年まで都内の編集会社に勤務)が終ると、大きな紙袋に新刊詩集を入れて、「行商」にでかけた。東京では、東京堂書店、文献堂書店、白樺書院、三茶書房、田村書店、文泉堂書店、書原、模索舎。川崎・ルビコン書房、名古屋・ニッシン上前津店、京都・三月書房、神戸・コーベックス、大阪・青泉社、小倉・金栄堂、札幌・リーブルなわ、などへも直送した。話題作となると、追加注文がつづいた。

〈80年代詩叢書〉の頃までは、ほとんど全部、詩集の装幀は、自分でしていた。でも読者としっかりつながるにはこの先、しろうとの装幀では無理だと思った。山本育夫の紹介で出会ったデザイナーの芦澤泰偉に装幀を依頼した。最初の装幀は、1980年6月の岩崎迪子の詩集『日の食卓』。以降、紫陽社の約150冊を装幀。近年では、石毛拓郎『ガリバーの牛に』(2022)、中島隆志『倉庫の明かり』(2023)、中村薺『春子』(2024)などシャープな装幀が、詩集の世界を彩る。芦澤泰偉は1948年、静岡県生まれ。2018年、第49回講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞。

紫陽社の本は、著者の第一詩集が過半を占める。若い詩人たちの最初の仕事に立ち会える。それが大きなよろこびだ。また、新しい書き手は早くに出



紫陽社の主な詩集 (福井新聞社・提供)

発すると、その分だけ活動時期が長くなり、詩の世界に大きな恵みをもたらす。自分の詩も大切だが、それだけでは面白くない。詩の世界全体が面白くなる。そんな風景をつくりだすことが理想だ。

「詩が書かれていること」を示していく。紫陽社は、そのための小さな灯明

1990年代になると、メディアの多様化もあって、詩の読者は少なくなり、最後まで残っていた「ぼえむ・ぼろうる」は2006年4月に閉店。以降、読者の詩集との関係も変化した。でも、いまも詩の読者は確実に存在する。人が気づいてくれなくても、こちらとしては、いい詩集をつくっておく。詩が読まれないとしても、「詩が書かれていること」を示していく。紫陽社は、そのための小さな灯明でありたい。

受賞詩集も多い。H氏賞は、清水哲男『水甕座の水』、永塚幸司『梁塵』(1986)など3冊。中原中也賞は、蜂飼耳『いまにももうおっていく陣地』(1999)。これが活版でつくった紫陽社の詩集のフィナーレとなった。他に地球賞、小熊秀雄賞、農民文学賞など。ぼく個人の思い出になる詩集は、竹久昌夫『針子の唄』(1981)、森原智子『鳥の木・他十九篇』(1981)、桐原景二『産業道路』(1984)、木内寛子『夕日は』(1994)など。いずれ

も稀有な才能をもつ詩人だ。

『田畑修一郎全集』(冬夏書房)を刊行した、梶野博文の散文集『対馬の旅』(1988)も忘れがたい。節目の年の詩書は、次の通り。

紫陽社5周年記念・則武三雄『葱』1978年5月／紫陽社10周年記念・清水哲男『地図を往く雲』1983年12月・郷原宏『冬の旅・その他の旅』1984年5月・仙波龍英歌集『わたしは可愛い三月兎』1985年5月／紫陽社20周年記念・許萬夏詩論集『柔らかな詩論』大崎節子訳・1994年5月／紫陽社25周年記念・蜂飼耳『いまにももうおっていく陣地』1999年10月／紫陽社30周年記念・日和聡子『風土記』2004年11月／紫陽社50周年記念・張籠二枝『愛子のいた町』2024年1月、中村薺『春子』2024年2月、小松宏佳『崖』2024年9月、小川ゆめ『国境』2024年10月、上杉和歌子『パラポリカ』2024年10月、など7点。40周年のときも出す必要があったが、忘れていた。紫陽社の刊行総数は前記のように2024年10月現在、287点。8割が自費出版。2割が企画本か、それに準ずるもの。ぼくは著作が仕事だが、90%が書いたり、話したりの時間。10%が紫陽社のこと。だが数字に表れないところで、いつも紫陽社のことを考えているように思う。

モットーは、素早く詩集をつくるこ

と。著者の原稿が入ってから、2か月ほどでつくる。通常、多くの版元は6か月。紫陽社はちがう。校正刷が出たと連絡があると、どんなに多忙でも必ずその日のうちに印刷所に出向き、校正刷を夕方、レターパックライトで著者にあてて投函。短期間で入念な校正を経て、仕上げる。詩集は、いきもの。スピーディーに出す。今年出た7冊は、すべて1か月半から2か月以内に出来上がった。また、編集を一任された場合、作品の順序は適正になるよ

うにつとめる。作品順で、詩集の印象は豊かで深みのあるものになる。紫陽社から詩集を出したいという人は、いまでもいる。信頼を勝ちえるためには、こまやかな努力しかない。

紫陽社は1980年、地方・小出版流通センターに加入。同センターを通して、読者と結びつくことになった。地方・小出版流通センターの活動については、NHK教育テレビ「視点・論点」(2010年11月24日放送)で、「地域出版の歩み」と題して話した。

納品のため、年に5、6回、同センターに行く。紫陽社の棚の在庫を確認したあと、各地域の出版社の書物を見て回る。楽しくて、しあわせなひとときだ。そして元気が出てくる。また詩集をつくろうと、心に誓うのだ。

*

荒川洋治(あらかわ・ようじ)

1949年福井県生まれ。現代詩作家。1974年、詩の個人出版〈紫陽社〉を創設。

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『北関東3県のビリ争いの秘密—800年続く戦争』●たみやじゅん 著



群馬・栃木・茨城の北関東3県は、都道府県魅力度ランキングで残念ながら下位の常連となっています。本書はそんな3県の歴史をたどりながら、その真相を探っていきます。

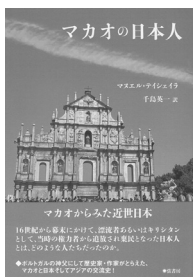
「800年続く戦争」とサブタイトルにあるように、著者は鎌倉時代から北関東3県のビリ争いが始まると書いていますが、これにはやや疑問が残ります。鎌倉時代の上野守護であった安達氏が霜月騒動で滅亡して北条氏が守護になったので、この時代は上野国(群馬県)がビリと記載がありますが、どういうことなのでしょう。しかし特に鎌倉時代以降は(ビリ争いではなく)普通に武士同士の争いが北関東3県でも起こっていました。そのなかでも歌人としても優れていた宇都宮頼綱や、何度負けても再起を図って戦い続けた小田氏治など、特徴

のある武将たちも紹介されています。江戸時代を経て明治に入り廃藩置県が行われ、3県が現在の形になると俄然3県での比較もしやすくなります。甲子園の高校野球の優勝回数や、家電量販店戦争の覇者はどこかなどといった記事もありますが、各県の名物料理やそれぞれの土地に集まる海外からの移民たちのエスニック料理なども紹介されています。

その他にもはるか昔の群馬が海の底だった時代や旧石器時代や古代の歴史についても記載があり、3県の紆余曲折の歩みをハンディにつかむことができます。タイトルは「ビリ争い」となっていますが、3県の魅力も伝わってくる一冊となっています。(副隊長)

◆1000円・A5判・156頁・上毛新聞社・群馬・202407刊・ISBN9784863523463

『マカオの日本人』●マヌエル・テイシェイラ著／千島英一訳



15世紀末、ヨーロッパ諸国に先駆けて海外進出し、大航海時代の先鞭をつけたポルトガルは、16世紀にはマカオを居留地とし、交易とキリスト教布教の拠点にした。布教のシンボルとなったのは、1602年から40年をかけて建設し、アジア最大級といわれた大三巴牌坊(聖ポール大聖堂)である。この建築に多くの日本人キリスト教徒が当たり、しかも、教会の顔であるファサード(正面の外観)に、菊の花の彫刻をあしらったというのには驚かされる。

本書はポルトガルの神父で歴史家、作家のマヌエル・テイシェイラが、1990年に発表した論文「The Japanese in Macau」の中国語版(社会科学文献出版社 2010)からの翻訳である。16世紀から幕末にかけマカオには、時の権力者から追われ棄民となって生涯を終えたキリシ

タンが数多くいた。また、千石船で名古屋から江戸に向かう途中に難破して漂着した商人たち、往復それぞれに1年近くも滞在した遣欧使節団など、マカオで暮らした日本人の実態が、当時の政治・社会状況を背景に掘り起こされる。追放された中にはイエズス会士や司教もいる。彼らが描いた、1597年2月5日に秀吉の命により長崎で十字架に磔られた日本人信徒と神父ら26人の殉教図が、マカオの聖ヨセフ神学院に遺され、氏名、年齢、職業が明らかにされている。別の聖堂に遺骨が保管されている殉教者59名の一覧もある。原論文は一部の研究者には知られていたが、全訳されたことの意義は大きい。(飯澤文夫)

◆1500円・A5判・134頁・弦書房・福岡・202408刊・ISBN9784863292901

売行良好書

期間：2024年8月15日～9月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

【出荷センター扱い】

- (1)『一年前の猫』2000円・ナナロク社 (2)『酒場の君』1500円・書肆侃侃房 (3)『徴兵体験 百人百話』1500円・17出版 (4)『出雲と蘇我王国』2200円・大元出版 (5)『韓国ドラマを深く面白くする22人の脚本家たち』2200円・クオン (6)『椋鳩十と戦争』2000円・書肆侃侃房 (7)『読者としての子ども』1400円・東京子ども図書館 (8)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社 (9)『近江の戦国城郭』2000円・サンライズ出版 (10)『花はつぼみのままに』2500円・鉦脈社 (11)『多摩学』2500円・ぶんしん出版 (12)『毛利・織田戦争と城郭』3000円・ハーベスト出版 (13)『マカオの日本人』1500円・弦書房 (14)『上方講談という愉しみ』1400円・寿郎社



【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

- (1)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社 (2)『琵琶湖の魚類図鑑』4000円・サンライズ出版 (3)『2024世代 いわて高校野球ファイル』1400円・岩手日報社 (4)『隠岐の山城 続出雲の山城』2000円・ハーベスト出版 (5)『知られざる〈学童保育〉の世界』1900円・寿郎社 (6)『シソヌジろうの自分探し』1400円・東奥日報社 (7)『特急やくも写真集』2500円・今井出版 (8)『第106回全国高等学校野球選手権群馬大会の記録』900円・上毛新聞社 (9)『「砂の器」と木次線』1800円・ハーベスト出版 (10)『毛利 織田戦争と城郭』3000円・ハーベスト出版 (11)『「記憶」のなかの戦後史』2200円・フェミックス (12)『決定版 目からウロコの琉球沖縄史』1800円・ポーターインク (13)『栃木のきのこ新図鑑』2500円・下野新聞社 (14)『上方講談という愉しみ』1400円・寿郎社 (15)『岡山の絶滅危惧植物』900円・日本文教出版 (16)『魚と人をめぐる文化史』2100円・弦書房 (17)『第106回全国高等学校野球選手権群馬大会の記録』900円・上毛新聞社



以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧Twitter) 公式アカウント : @local_small

トピックズ — ★★★

▼1から9までの数字を使ってマス埋めていくだけのシンプルなパズル「数独」が世に出て今年には40年という記念すべき年だとのこと。パズル制作集団「ニコリ」(中央区)前社長の鍛冶真起(かじ・まき)さん(故人)が1984年、米国の雑誌にあったパズル「ナンバープレイス」を見つけ、自社で発行する書籍に自作の問題を掲載したのが始まりで、英語で1桁の数字を「シングル」と表現することから「シングル=独身」と連想し、当初のパズル名は「数字は独身に限る」でした。「長すぎる」という声が社内で上がり、略して「数独」になったという経緯が伝説となって今に語り継がれています。「数独」は今や「SUDOKU」という呼び名であらゆる国で大人気のパズルとなっていて、その名付け親の鍛冶さんは「The Godfather of SUDOKU」と呼ばれるほどに。この記念すべき年に「数独40周年フェア」が各地の書店で開催される予定とのこと。ニコリ現社長の安福良直さんには当「アクセス」誌の2014年9月号に「数独」30周年の歩み—今後は面白いパズルを載せて、共感してくれる読者を着実に増やしていきたいのタイトルでご寄稿いただいたことがありました。それから10年の歳月が流れたわけです。また2017年12月号に安福さんに寄稿いただいた〈大人気パズル「数独」の知られざる可能性—「じいじとばあば ようこそ数独!」発刊、予想以上の反響〉では、3.11で被災された高齢者の方々の声がかきかへと、初級者向けよりもさらにやさしい初心者向け数独の必要性に気づいた経験が語られています。さらに安福さんには2023年1月号に、ニコリ前社長の鍛冶さんを追悼する〈『すばらしい失敗』とニコリの現在—鍛冶さんの理念「ニコリのパズルを世界に広める」に共感し、後継者として考え取り組んできたこと〉を寄稿いただいています。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

ジュンク堂書店 淳久堂書店

池袋本店

営業時間：午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

2階「ふるさとの棚」では、地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋 2-15-5
TEL 03-5956-6111
<http://www.junkudo.co.jp>

